

## 研修報告書No. 1 4

所 属：聖マリアンナ医科大学病院研修医

研修先：本山町立国民健康保険嶺北中央病院

いの町立国民健康保険長沢診療所

大川村国民健康保険小松診療所

高知県は人口 10 万人あたりの医師数は全国でも上位ですが、都市部への医師の偏在により都市部から離れた地域では医師が不足している現状があります。県内にはいくつかの地域拠点病院があり、そこから無医地区の診療所への医師派遣や訪問診療を行い無医地区の医療をカバーする体制になっています。

今回私が研修させて頂いた嶺北中央病院もそうした地域拠点病院のひとつであり、病院のある本山町をはじめ周囲の大川村、土佐町、大豊町の医療を担っています。私も嶺北中央病院の指導医に同行しへき地診療所での研修や訪問診療をさせて頂きました。私が行った診療所は山々に囲まれた地域にあり嶺北中央病院から車で 30 分から 1 時間以上かけて向かいました。診療所での診療日は限られていましたが、それでも無医地区の患者さんにとって定期的な診察と薬の処方が受けられる貴重な機会であり、無医地区の診療所がいかに重要な役割を果たしているかを知りました。同時に、都市部での医療環境とは違い、体調が悪くなったらすぐに近所の病院で診てもらえることが当たり前ではないのだということを痛感しました。診療所を受診される患者さんは御高齢の方も多く、また年々患者さんの人数も減ってきていると聞き、無医地区での過疎化と高齢化を実感しました。さらに、山が多いという特性上、救急車での搬送は時間がかかってしまうため、高知県内ではドクターヘリによる救急搬送の体制が整備されつつあり救急医療の強化が進められていました。

嶺北中央病院では急性期・慢性期(療養型)病床での病棟業務を基礎にへき地診療所研修、訪問診療、訪問リハビリ、小学校検診、特定健診、デイケアでの研修、リハビリカンファレンス、放射線科研修、検査室研修、併設する保健センターでの高血圧の講義など多くの内容が盛り込まれた研修となっていました。大学病院ではできない貴重な経験をすることができ、高知の地域医療を学ぶことができました。病院のコメディカル・スタッフの方々には温かく接して頂き、すぐに顔馴染みになることができました。休日には高知県内の観光名所を巡ったり、美味しい料理を堪能することができました。

1 ヶ月間、高知県での地域医療を経験し、普段自分が勤務する大学病院での医療とはまた違った医療を経験することができました。地域医療では物資面(使える薬剤や医療器具の種類等)と設備面(エコー、CT、MRI 等)に制限があります。そうした環境下で、どんな患者さんでも診なければなりません。患者さんの重症度を判断し、時には専門医がいる都市部の病院に搬送することも見極める必要があります。地域で働く医師にとって、幅広く病気を診る知識と患者さんの身体所見や限られた検査の結果から診断し治療する力が必要だと感

じました。

また、私が研修の合間に束の間の楽しみとしていたのがへき地診療所研修や訪問診療の際に移動する車の車窓から見える景色でした。決して便利とは言えない環境ではありますが、豊かな自然と美しい景色がありました。診察が終わった後に患者さんと一緒にお茶を飲んだり、患者さんから畑で採れた作物をお土産に頂いたりすることもあり、次第に患者さんとの距離が近づいていくような気がしました。患者さんの生活環境に触れることで、その地域に長年暮らす方々への愛着が生まれるとともに医療を通じて携わることの意義深さを感じました。

最後に、嶺北中央病院の佐野院長、指導医の稲垣先生始め嶺北中央病院の先生方、コメディカルの方々、職員の方々、いの町立長沢診療所の東谷院長、高知医療再生機構の久保事務局長、岡林さん、田中さん、その他の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。